



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月10日

上場会社名 株式会社ヒガシマル 上場取引所 福  
 コード番号 2058 URL <http://www.k-higashimaru.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 勤  
 問合せ先責任者(役職名) 常務取締役管理部長 (氏名) 松久保 稔 (TEL) 099-273-3859  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	9,245	3.1	47	△85.4	171	△59.4	95	△59.3
2022年3月期第3四半期	8,969	△8.6	325	151.5	423	131.3	235	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 157百万円(△34.0%) 2022年3月期第3四半期 238百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	24.39	—
2022年3月期第3四半期	60.18	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	15,591	5,341	34.3
2022年3月期	12,082	5,203	43.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 5,341百万円 2022年3月期 5,203百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	9.00	9.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,977	6.1	23	△88.8	101	△72.0	51	—	12.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	4,746,000株	2022年3月期	4,746,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	809,789株	2022年3月期	827,889株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	3,928,905株	2022年3月期3Q	3,909,911株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、四半期決算短信[添付資料]3ページ、「(3) 連結業績などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### 当期の連結業績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大で受けた経済活動への打撃の影響は残っているものの、政府の経済対策やウィズコロナ生活様式が浸透してきたことにより、個人消費やインバウンド需要の高まりで景気は徐々に回復基調にあります。しかしながらウクライナ情勢の長期化、為替変動及び資源価格上昇等による物価高騰が企業収益力や家計の購買力を低下させており、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループにつきましては、原油・資源関連の価格上昇等により、魚粉及び小麦粉等の主要原材料価格は高値圏で推移しております。このため、販売価格の見直しや経費削減などを行い収益改善に努めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高92億45百万円（前年同四半期比3.1%増）、営業利益47百万円（前年同四半期比85.4%減）、経常利益1億71百万円（前年同四半期比59.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益95百万円（前年同四半期比59.3%減）と増収減益になりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

#### ①水産事業

水産事業につきましては、外食及び業務用向けの需要回復により鮮魚市場の流通もコロナ禍前に戻りつつあります。しかしながら、養魚用配合飼料の主要原材料となる魚粉は、海外経済情勢の悪化や新興国の強力な買い付けに起因し、これまでにない高値取引となっているほか、生産関連資材及び輸送費等も高騰しており、収益を圧迫しております。そのため、製品価格の値上げを実施してまいりましたが、依然として厳しい状況が続いております。

エビ飼料類は、販売先の養殖在池尾数も多く良好な育成環境であったことから販売も順調に進み、売上高は前年同期を上回りました。しかしながら原材料等価格の高騰が続いているため、昨年12月から値上げを実施しました。ハマチ飼料類は、一昨年のモジャコ（ハマチの稚魚）採捕不漁等により養殖在池尾数が全体的に少なかったことから販売は低調な滑り出しでしたが、受託製品販売の増加や値上げが浸透したことなどから前年同期を上回りました。ヒラメ・トラフグ・マダイ飼料類は、養殖在池尾数がコロナ禍前の状態に回復し育成環境も良好であったことから販売も順調に進み、また値上げも浸透したことなどから前年同期を上回りました。

魚類種苗生産は、ヒラメ・アユ種苗の既存客先の受注が増え順調に推移しました。また、鮮魚販売事業は、仕入先の養殖魚が夏場の高水温等の影響を受け成長不良となったことなどから取引が少なかったため低調に推移しました。クルマエビ養殖事業は、飼育環境（養殖密度、給餌方法及び池の底質保全）の改善を進めており、前年同期を上回りました。魚類養殖事業は、養殖魚種を減らして生産性を高めてまいりましたが、高水温期に発生した病気が長期化したことにより、前年同期を下回りました。

その結果、売上高は54億1百万円（前年同四半期比1.4%増）、セグメント利益は3億3百万円（前年同四半期比24.1%減）となりました。

#### ②食品事業

食品事業につきましては、政府の行動制限の段階的緩和策により個人消費が押し上げられ、外国人入国の水際対策緩和及び円安進行によりインバウンド需要も回復傾向で推移しました。しかしながら、不安定な世界経済情勢やエネルギー関連商材の高騰などの影響により、食料品や日常生活品を中心に価格の値上がりが続いております。当社グループにおきましても、主原料の小麦粉を始め、生産関連資材及び輸送費等が軒並み高騰しているため、製品価格の見直しを慎重に実施してまいりました。

即席麺類は、インバウンド需要が徐々に回復してきたことや価格改定を実施したことなどにより前年同期を上回りました。乾麺類（うどん・そうめん等）は、新規販売店の開拓、価格改定及び規格変更を実施したことなどにより前年同期を上回りました。皿うどん類は、新規取扱店の増加、価格訴求品「H皿うどん」の販売及び新製品「横浜かた焼きそば」も関東エリアを中心として定番導入ができたことにより前年同期を上回りました。また、カップ類の新商品「辛麺風スープ」、「鶏飯風スープ」を販売開始したことや、「おかゆkitchen」がコロナ療養者向け提供食として採用されたことが売上の増加に繋がりました。

カレールー・シチュールー類は、他社製品の値上げが進むなか従来価格を維持したことで量販店及び新規導入

店への販促が進み順調に推移しました。穀粉類は、新規取引先への販売や既存取引先での新商品導入ができたことなどにより前年同期を上回りました。また、かき揚げ類は、主要取引先である大手小売店からの受注が順調に推移し、業務用商材も回復傾向にあることや値上げを実施したことなどにより前年同期を上回りました。

その結果、売上高は38億43百万円（前年同四半期比5.5%増）、セグメント利益は55百万円（前年同四半期比76.3%減）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ35億8百万円増加し155億91百万円となりました。これは、主として受取手形及び売掛金が9億43百万円増加、原材料及び貯蔵品が1億82百万円増加、建物及び構築物（純額）が15億28百万円増加したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べ33億70百万円増加し102億49百万円となりました。これは、主として買掛金が2億74百万円増加、短期借入金が1億72百万円増加、長期借入金が14億74百万円増加したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末と比べ1億37百万円増加し53億41百万円となりました。これは、主として利益剰余金が60百万円増加、その他有価証券評価差額金が61百万円増加したことなどによるものです。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの売上高は、通常第1四半期連結会計期間より第2四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の割合が高くなる季節的特徴があります。

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年11月11日に公表しました「2023年3月期第2四半期決算短信」における業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,922	1,901
受取手形及び売掛金	1,584	2,528
商品及び製品	637	660
仕掛品	272	323
原材料及び貯蔵品	1,559	1,742
その他	227	453
貸倒引当金	△9	△12
流動資産合計	6,195	7,596
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,005	2,534
機械装置及び運搬具（純額）	592	763
土地	2,174	2,222
その他（純額）	798	1,118
有形固定資産合計	4,572	6,639
無形固定資産		
のれん	109	71
その他	23	22
無形固定資産合計	133	93
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,220	1,300
貸倒引当金	△39	△39
投資その他の資産合計	1,181	1,261
固定資産合計	5,887	7,994
資産合計	12,082	15,591

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	748	1,023
短期借入金	3,480	3,652
未払法人税等	64	35
賞与引当金	153	80
その他	456	991
流動負債合計	4,903	5,784
固定負債		
長期借入金	1,314	2,789
退職給付に係る負債	98	101
その他	563	1,575
固定負債合計	1,976	4,465
負債合計	6,879	10,249
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	603	603
資本剰余金	437	433
利益剰余金	4,924	4,985
自己株式	△906	△886
株主資本合計	5,059	5,136
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	143	205
その他の包括利益累計額合計	143	205
純資産合計	5,203	5,341
負債純資産合計	12,082	15,591

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	8,969	9,245
売上原価	6,946	7,500
売上総利益	2,022	1,744
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	412	415
貸倒引当金繰入額	0	3
給料及び賞与	456	446
賞与引当金繰入額	25	35
退職給付費用	18	16
その他	782	780
販売費及び一般管理費合計	1,696	1,697
営業利益	325	47
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	9	10
為替差益	15	46
雑収入	81	80
営業外収益合計	111	141
営業外費用		
支払利息	10	16
雑損失	3	0
営業外費用合計	13	16
経常利益	423	171
特別利益		
受取和解金	-	55
特別利益合計	-	55
税金等調整前四半期純利益	423	226
法人税、住民税及び事業税	161	105
法人税等調整額	26	25
法人税等合計	187	130
四半期純利益	235	95
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	235	95



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	235	95
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	61
その他の包括利益合計	3	61
四半期包括利益	238	157
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	238	157
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	3,752	—	3,752	—	3,752
養殖魚類	1,575	—	1,575	—	1,575
乾麺・即席麺類	—	1,477	1,477	—	1,477
カレールー・シチュールー類	—	1,214	1,214	—	1,214
穀粉類	—	543	543	—	543
かき揚げ類	—	406	406	—	406
顧客との契約から生じる収益	5,327	3,641	8,969	—	8,969
外部顧客への売上高	5,327	3,641	8,969	—	8,969
セグメント利益	399	235	635	△212	423

(注) 1 セグメント利益の調整額△212百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費238百万円、営業外収益35百万円、営業外費用9百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	3,875	—	3,875	—	3,875
養殖魚類	1,526	—	1,526	—	1,526
乾麺・即席麺類	—	1,606	1,606	—	1,606
カレールー・シチュールー類	—	1,227	1,227	—	1,227
穀粉類	—	582	582	—	582
かき揚げ類	—	426	426	—	426
顧客との契約から生じる収益	5,401	3,843	9,245	—	9,245
外部顧客への売上高	5,401	3,843	9,245	—	9,245
セグメント利益	303	55	359	△187	171

(注) 1 セグメント利益の調整額△187百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費233百万円、営業外収益59百万円、営業外費用14百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。